

一月よみとりおけいこ⑧（低）

名まえ（

今年の干支は牛さんです。

六十年ほどまえまで京と市内にもたくさん牛がいました。牛はトラクターのかわりをしていたからです。たがやす時はすきをつけて、ならす時はまぐわをつけて、

お百姓さんといっしょに朝から日のくれ（夕方）まではたらきました。お百姓さんは、夕ぐれになると、自分の牛を近くの川につれて行き、わらのブラシできれいにしあげました。そして、玄関を一しよにくぐったのです。

牛かいさんは自分の家のほかに牛小屋をもっています。が、お百姓さんはふつう一頭の牛を大切にしていました。牛小屋よりも、目のいきとどく、母屋の入り口近くに、牛のへやをもうけて、一つやねの下で牛とくらししたのです。

牛のえさはあたりの草です。むかしはあちこちに牛のえさになる草がありました。冬用のほし草もかりとってやねうらやなやにためてありました。

牛のふんはすばらしいひりようになりました。牛小屋をそうじする時に外に出して、また畑や田んぼに返します。

江戸時代は牛のにくはたべませんでした。ぶつきようではころしてはいけなからです。（ただ、薬食いとよんで、こっそりたべることもありました。彦根藩では近江牛のみそづけを徳川のとのさまにさしあげていたといひます。）

牛のほねをぐつぐつにてとった「にかわ」というものは日本画のえのぐをつかうときや、なにかをくつつけるときやじようぶにするときにつかわれました。

日本人はなにかと牛のおかげでくらししてきたわけです。

音どくサイン↓

① なんのはなしでしょう？

② 牛は今の機械でいうとなにのかわりをしていたのですか？

③ たがやすときに牛につけるものはなんですか？

④ 夕方、お百姓さんは牛をどこにつれて行ったのですか？

⑤ ④はなんのためですか？

⑥ なぜむかしのお百姓さんは家の中で牛をかつていたのですか？

⑦ 牛のふんはなににつかわれましたか？

⑧ むかしなぜ焼肉屋さんがなかったのですか？

⑨ あっているものに○をつけましょう。

（ ）江戸のとのさまは肉はたべなかった。

（ ）牛のほねもやくに立った。

（ ）牛は夕方、お百姓さんを川であらった。

⑩ おもったことを五行でまとめましょう。

できばえは？

